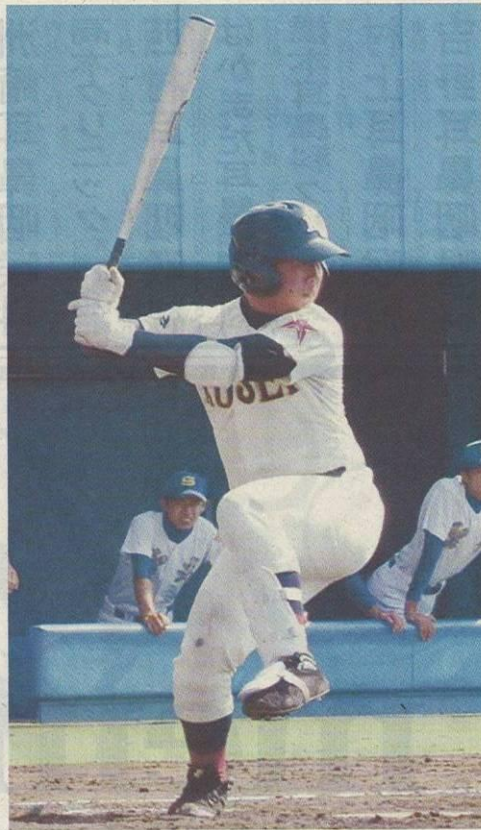




秋季東北大会を制した主将の田村(左から3人目)ら  
光星ナイン。左端は仲井監督。12日、秋田県立野球場

## 今夏準V光星、秋季東北大会制す



秋季東北大会を制した光星の要、田村主将。12日、秋田県立野球場

# 新チームでも強打健在

## 4試合30得点 主将田村が要

強打を武器に今夏の全国高校野球選手権大会で準優勝した光星が秋季東北大会を制した。4試合で30得点をマークするなど、新チームになって

者は主将に就任。守備でも三塁手から中学生まで守っていたという捕手に転向した。「全体を見ないといけない。自分が引っ張らない」と言葉に責任感をにじませる。

東北大会では2本塁打。右方向にも強い打球を飛ばせ、「ついでに一番いいバッター」と指揮官の信頼も厚い。田村は「どれだけチャンスに打てるか。アバレーツを残せるようなバッターになりたい」と話す。捕手としてのプレーにも「楽しい。良いリードができれば自分も成長できる」と貪欲だ。

部員の飲酒問題で新チームの始動は遅れた。だが、仲井監督は「かえってまとまった」と強調する。目標はもちらん甲子園大会制覇。「東北の野球が全国に十分通用することを示したい」。東日本大震災で傷ついた東北に吉報を届けられる日を信じて、再び八戸の地で練習に励む。